

### W33a 国際宇宙ステーション搭載 全天 X 線監視装置用 CCD カメラの開発の現状

富田洋、片山晴善、松岡勝、上野史郎 (JAXA)、常深博、宮田恵美、上村正樹 (大阪大学)

全天 X 線監視装置 (通称 MAXI) は 2008 年度に運用開始予定の天文ミッションである。国際宇宙ステーションの日本モジュール (きぼう) に取り付けられ全天 X 線モニターを過去最高の感度で行う。当初 MAXI は H2A ロケットで打ち上げ予定であったが、観測開始を少しでも早めるためきぼう本体と同じスペースシャトルで輸送することとなった。本講演では MAXI に搭載される 2 種類のカメラのひとつ CCD カメラ (通称 SSC) について講演する。SSC は 1 カメラに 16 個の CCD が搭載され、これが 2 台 MAXI に搭載される。現在設計も終了しスペア用の 1 台は製作も完了し冷却性能試験で EM と同じ性能が確認できた。エネルギー分解能は  $150\text{eV}$  (FWHM@ $6\text{keV}$ ) を満たしている。講演ではこの詳細に加えて 3 月に予定しているフライトカメラの性能についても講演する。また SSC は日本の将来 X 線天文衛星計画においても重要なステップとなっており、SUZAKU/XIS、NeXT/SXI と比べた場合の重要性についても述べる予定である。